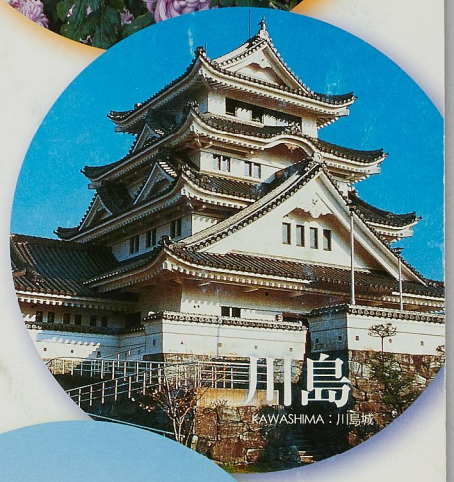
[小学3・4年生 社会科副読本]

わたしたちの吉野川市



吉野川市教育委員会

校　章

鴨　島　町

西麻植小学校　鴨島小学校　牛島小学校　知恵島小学校

飯尾敷地小学校　森山小学校　上浦小学校

川　島　町

学島小学校　川島小学校

山　川　町

川田西小学校　山瀬小学校　川田中小学校　川田小学校

美　郷

種野小学校

3・4年生のみなさんへ

わたしたちの住んでいる吉野川市をよく見てみましょう。吉野川市は，徳島県の中央北部にあります。美しい清流「四国三郎」吉野川に育まれ，ホタルやつつじの大群生など四季おりおりの豊かな自然に恵まれています。米，野さい，くだものなどの田畑が広がり，農業も盛んです。また，伝統工芸である和紙づくりは広く知られています。神社やお寺，城あとなど歴史的な文化財もたくさんあります。

大きなお店や，生活のための道路などの整備も進んでおり，便利になってきています。

この本は，3・4年生の社会科で学習するわたしたちが住んでいる吉野川市の「まちのようす・人びとの仕事やくらし・くらしのうつり変わり」などについてまとめてあります。

写真や地図・グラフなどを見て，考えたり，問題を見付けたりして，学習を進めていきましょう。

また，この本をもとにして，いろいろな人からお話を聞いたり，ものを見学したりしてわたしたちの吉野川市を調べてください。そして，吉野川市のよさやこれからの吉野川市についてみなさんで考えてみてください。

もくじ

3年生

1 わたしのまち　みんなのまち

1　学校のまわり
(1)　鴨島町……4
(2)　川島町……5
(3)　山川町……6
(4)　美　郷……7
2　市の様子
●吉野川市全体……8

2 はたらく人とわたしたちのくらし

1　店ではたらく人
●吉野川市の商店……10
(1)　ショッピングセンター……11
(2)　ホームセンター……13
(3)　コンビニエンスストア……15
(4)　スーパーマーケット……17
2　農家ではたらく人々の仕事
(1)　米づくり（山川町）……19
(2)　にんじんづくり（鴨島町）……21
(3)　ぶどうづくり（川島町）……23
(4)　畜産（美郷）……25
3　工場の仕事
(1)　部品工場の仕事……26
(2)　中央工業団地……28
(3)　ドア工場の仕事……31

3 かわってきた人々のくらし

1　古い道具と昔のくらし……33
2　のこしたいもの，つたえたいもの
●五九郎祭り……36
●高開の石積み……37
●秋祭り（川田八幡神社祭　山川町川田）……38
3　昔さがしをしよう
(1)　鴨島町の昔さがし……39
(2)　川島町の昔さがし……41
(3)　山川町の昔さがし……43
(4)　美郷の昔さがし……45
4　くらしのうつりかわりの年表……46

4年生

4 くらしを守る

1　火事からくらしを守る
省略
〈別紙「消防のしくみ」（徳島中央広域連合消防本部発行）を参照〉
2　事故や事件からくらしを守る……48

5 住みよいくらしをつくる

1　水はどこから……51
2　ごみの処理と利用……56
●くらしをささえる電気……64

6 きょう土をひらく

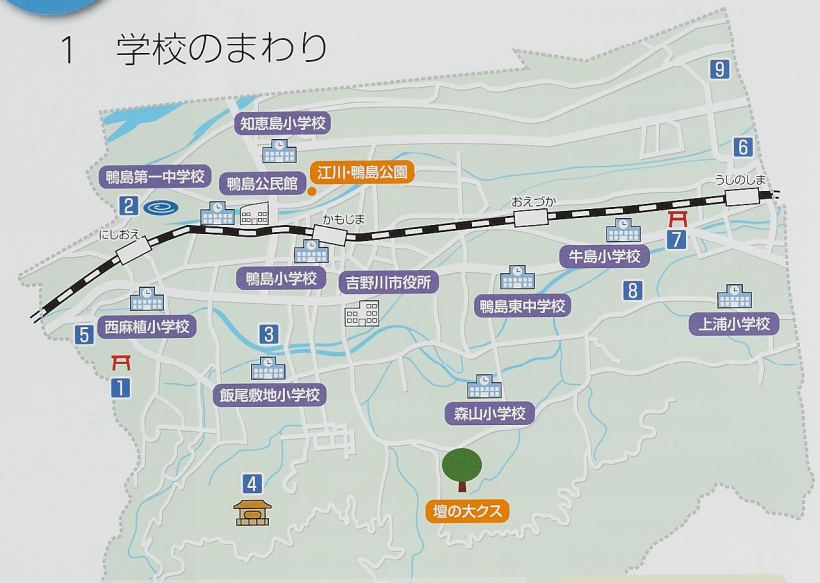
1　山ろくに広がる用水
(1)　さまざまな用水のくふう
●川俣用水……66
●麻名用水……69
●大正池……75
(2)　地いきの文化を受けつぐ
●芳川頭正……77
(3)　地いきの産業をおこす
●阿波和紙伝統産業会館……78

7 わたしたちの県

〈別紙　徳島県版「わたしたちの徳島県」を参照〉

1 わたしのまち　みんなのまち

1　学校のまわり



鴨島町

人口：24,400人　面積：33.76㎢

1 西麻植八幡神社
2 江川湧水源
3 麻名用水
4 藤井寺（11番札所）
5 へんろ道しるべ
6 監物堤
7 稲垣神社
8 向麻山公園
9 郡境の碑

鴨島町は，吉野川市の東部（徳島市から約 20 ㎞西）に位置し，東西約 7㎞，南北約 8 ㎞で，面積は 33.76 平方㎞です。町の南に四国山地，北に吉野川をのぞみ，江川のわき水や向麻山をもつ自然豊かな町です。古くは，吉野川が運ぶよく肥えた土を生かした藍作が盛んでしたが，麻名用水の完成によって米作りができるようになりました。大正から昭和の初めにかけては，製糸業が盛んで，東西交通路の重要な地として発展してきました。昔は，何度となく洪水にみまわれましたが，その度に人々は力を合わせてこの土地を大切に守り育ててきました。

11 番札所藤井寺には，弘法大師お手植えと伝えられる五色に咲く藤があり，お遍路さんの姿が絶えません。6 月には鴨島町独自のユニークな祭り五九郎祭りが，11 月には市役所前広場で秋の訪れを告げる菊人形祭りが開かれています。

川島町

人口：8,168人　面積：17.69㎢

1 銅たくが出た場所
2 大日寺あと
3 上桜城あと
4 渡し場あと
5 川島城
6 峰八のししかぎ
7 二ツ森

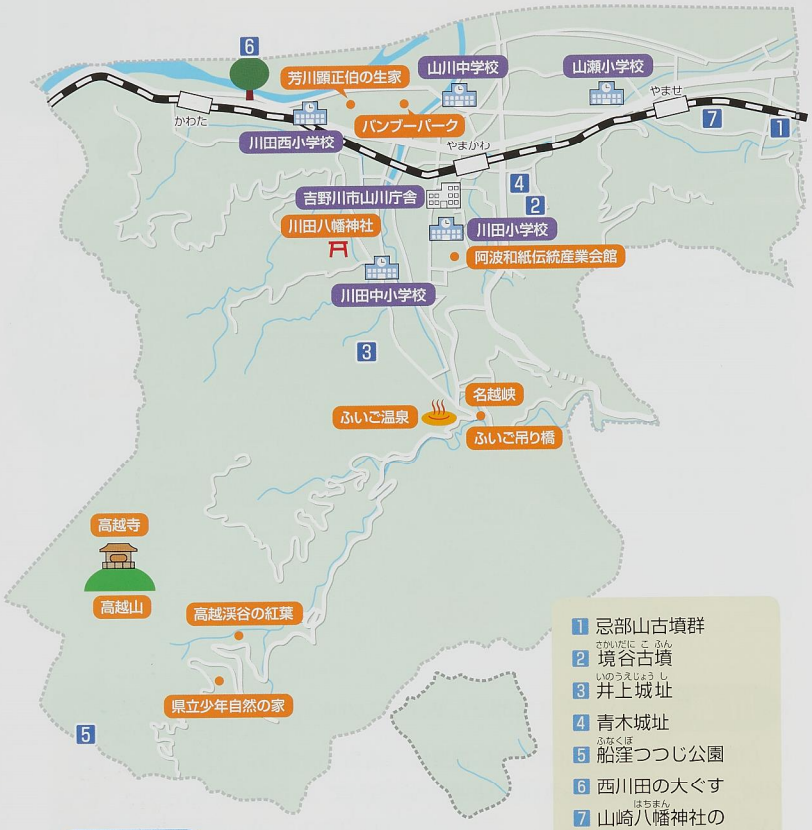
川島町は吉野川市のほぼ中央に位置し，東西約 6 ㎞，南北約 3 ㎞ で，面積約18平方㎞となっています。

町の北がわには吉野川が西から東に流れ，南には四国山地があります。

吉野川にそって広い平野があり，田が広がっています。西の学地区にはぶどう畑も多く見られます。

町のまん中を東西に JR 徳島線が通っており，鉄道にそって県道川島・山川線が走っています。また，町の北のはしを吉野川にそって国道 192 号線が東西に走っています。

最近は，国道にそって新しい店ができ，新しい住たくや工場もだんだんできています。また，大きなアパートやマンションも次々にたち，田や畑はだんだん少なくなってきています。



1 忌部山古墳群
2 境谷古墳
3 井上城址
4 青木城址
5 船窪つつじ公園
6 西川田の大ぐす
7 山崎八幡神社の大イチョウ

山川町

人口：11,131人　面積：42.27㎢

山川町は吉野川市の西部に位置し，東西約 8 ㎞，南北約 4 ㎞で，面積約 44 平方㎞となっています。

南西に高越山をあおぎ，北に清き流れの吉野川をのぞむ美しい自然に恵まれた町です。町の中央部を流れる川田川と吉野川ぞいに平野部が広がっています。

町の北のはしを，吉野川にそって国道 192 号線と JR 徳島線が，東西に走っています。この国道 192 号線と美郷に通じる国道 193 号線の交わる地域では，たくさんの店が集まっています。

忌部氏の名で知られるように，祖先は，はやくからここに住み，この土地を大切に守り，たがやし，文化を築いてきました。

1 美郷ほたる館
2 中枝平八幡神社境内の大いちょう
3 高開の石積み
4 母衣暮露滝

美　郷

人口：1,167 人　面積：50.47㎢

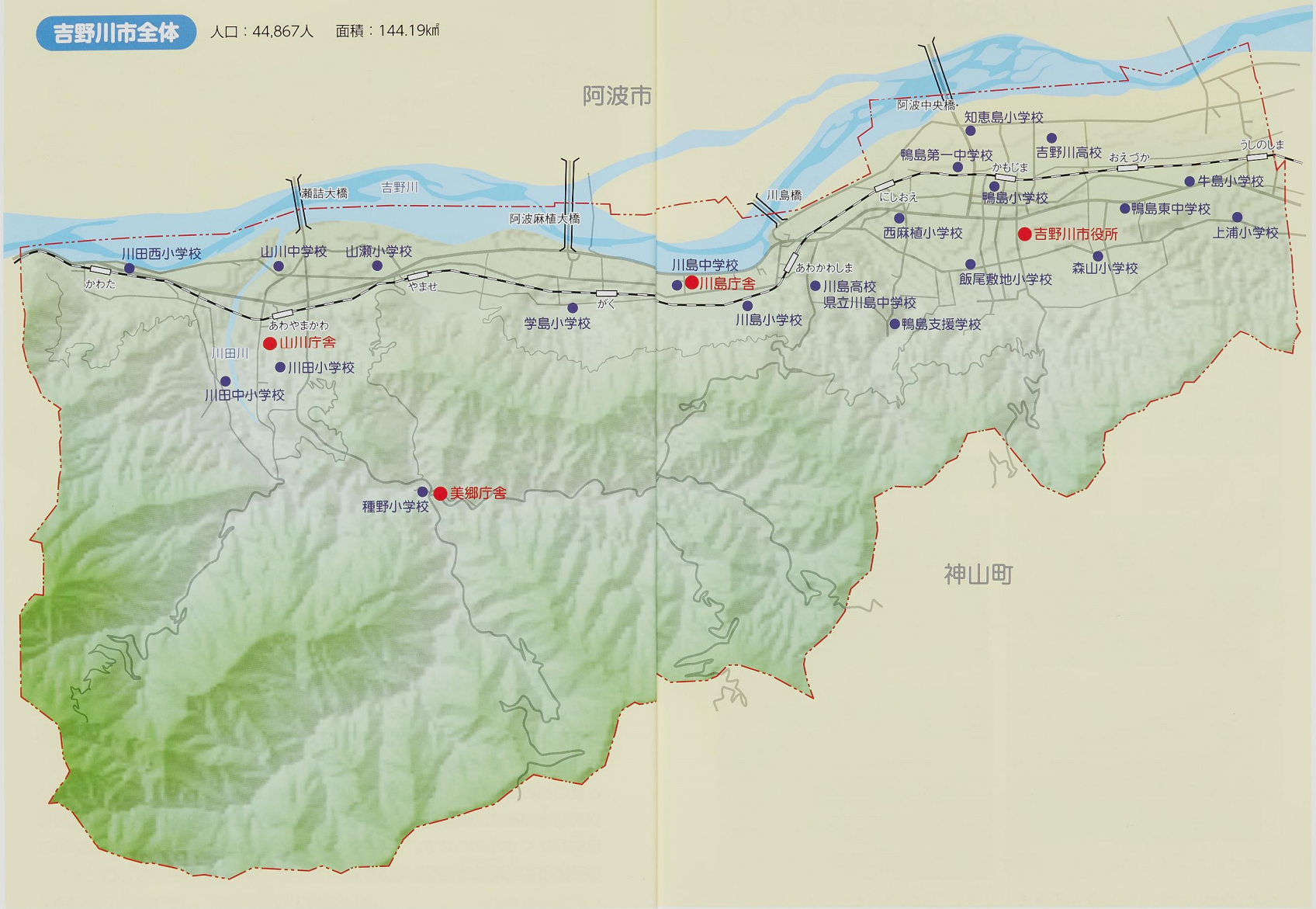
美郷は，吉野川中水系の川田川上流部に位置する東西 13㎞，南北 8㎞，総面積 50.47平方㎞，人口 1,167 人の地区です。北は山川町と川島町，南東部は神山，南は美馬市を経て剣山山脈に連なっています。谷に沿った傾斜地に，梅畑が多く作られています。梅酒や梅干しなどの梅を使った加工品は，美郷の特産物となっています。

また，美郷東部の東山谷川の上流には，鉱山の跡地からわき出る豊富な鉱泉を利用した「美郷温泉」があり，多くの人が利用しています。

夏の初めごろには，川田川の上流やその谷間で国指定天然記念物の「ホタル」が飛び交います。美郷ほたる館には，ホタルや美郷の歴史や文化についての展示物がたくさんあります。そして，ホタルが自然発生する環境を守るために，いろいろな保護活動を行っています。

吉野川市全体

人口：44,867人　面積：144.19㎢



2 はたらく人とわたしたちのくらし

1 店ではたらく人

吉野川市の商店

わたしたちのくらしには，食べ物をはじめ，服や道具など，いろいろなものがいります。まちの人たちは，そのほとんどのものを店で買っています。

吉野川市内には，どのような店があるのでしょうか。パン屋，菓子屋，酒屋，米屋，薬屋，本屋などのように昔から営業している店があります。店がたくさん集まっている商店街もあります。最近では，スーパーマーケットや弁当屋，コンビニエンスストア，大型のショッピングセンター，趣味や日曜大工に必要なものを扱う店なども増えてきています。

昔からある店

鴨島町

川島町

山川町

美郷

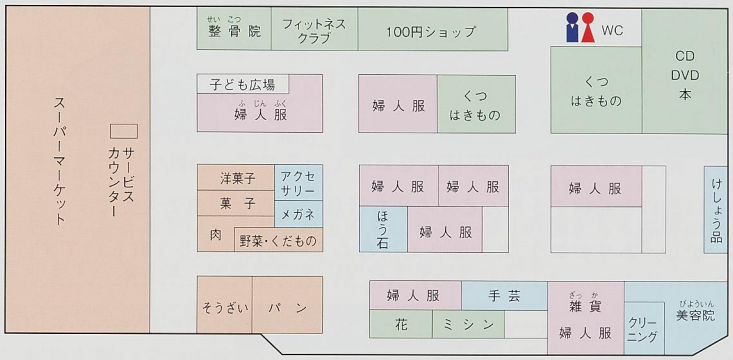
店ではたらく人のしごとについてしらべるために，どこに行ってしらべればよいのか，話し合ってみましょう。

(1) ショッピングセンター ～いろいろな店が集まっています～

大型のたてものの中に，スーパーマーケットといろいろなせんもん店が集まっています。車を450台もとめることができる広いちゅう車場もあります。次々に，たくさんの人が買い物に来ています。

鴨島町にあるショッピングセンター

●ショッピングセンターの配置図



スーパーマーケットの店内

せんもん店がならぶ広い店内

〔地いきとむすびついた店として〕

店内をその季節にあったかざりつけにしたり，イベントを行ったりして，お客さんが買い物を楽しみ，より身近な店と感じることができるように工夫しています。スーパーマーケットとせんもん店の人が話し合い，防災訓練なども協力して行っています。

スーパーマーケットの店長さんの話

サービスカウンターをもうけ，店内の案内をしたり，おくり物の包装をくふうしたりして，お客さんの希望におこたえできるようにしています。また，この店にしかないような品質がよくて値だんも手ごろな商品で，よさをアピールしています。

元日をのぞいて364日店をあけているので，台風など天気の悪い日にも品物をきちんとそろえなければならないので大変です。しかし，「ありがとう」とお客さんに喜んでいただけるとうれしいです。

せんもん店の人の話

他のせんもん店の人たちと力を合わせて，地元にある商店としてのよさをアピールしながら，地元の人たちとのつながりが感じられるようなイベントを行ったりしています。

ただ品物を売るだけでなく，一人一人のお客さんと顔見知りになって気軽に話ができ，品ぞろえと安さで喜んでいただけるようにしたいと考えています。

(2) ホームセンター

吉野川市内にも，最近ホームセンターとよばれる大きな店がふえてきました。ホームセンターには，わたしたちがふだん生活するために必要なものがたくさん売られています。

店のくふう

●たくさんの品物

この店では，花のなえや肥料，日用品，カー用品や電気せい品など，約30,000種類もの品物をそろえています。お客さんがほしいものでお店にない品物があれば，業者や本社にれんらくしてすぐに取りよせてくれるそうです。

店のようす

おいてある品物は，日本製のものをはじめ，遠く外国からも品物が来ています。最近は，中国製のものが最も多いそうです。

●いつでもお店に来てもらえるように

お店が開いている時間は，朝9時から夜の7時半までです。お休みは1月1日の元日だけで，ほぼ1年中お店が開いています。

車で来てくれるお客さんが多いので，お店の前にはとても広いちゅう車場があります。

店の中のようす

●多くのお客さんにきてもらうために

毎週水曜日，新聞にちらしを入れて，おすすめや安売りの品物をしょうかいしています。

大きな品物を自分の車で運べないお客さんのために，軽トラックの1時間無料かしだしサービスもおこなっています。

店ではたらく人の話

お店にきてくれるお客さんは，農業関係の品物を買ってくださるかたが多いので，たくさんの種類の品物をそろえたり，すぐにほしいものが見つけてくれるように品物のならべ方を工夫しています。

お客さんにたいしては，スタッフ全員がていねいで親切な対応ができるよう，いつもみんなで気をつけています。ほしい品物がみつかってお客さんがよろこんでくれたときが，私たちがいちばんうれしいときです。

店長さん

店のようす

広いちゅう車場

(3) コンビニエンスストア

吉野川市を東西に走っている国道192号線沿いにいろいろな店がたくさんあります。コンビニエンスストアも次々と新しくできました。

鴨島町にあるコンビニエンスストア

コンビニエンスストアは，24時間いつでもあいていて，とても便利です。品物も新聞やざっし，お弁当やおにぎり，おかしや飲み物，文ぼう具や日用品など，日ごろの生活に必要な物は，ほとんどそろっています。最近では，いろいろなチケットを買ったり，切手を買って手紙を出したりすることもできます。また，通信販売などで買った物の代金をしはらうこともできます。

気軽に立ちよることができ，子どもからお年よりまで，たくさんの人が利用しています。

店の中の様子

いろいろな品物がならんでいます

コピー機もあります

店長さんの話

24時間お店があいているので，子どもさんからお年よりの方まで，たくさんの人が利用してくれています。お客さんがいつ来てもほしい品物がそろっているように，また，お客さんが気持ちよく買い物ができるように，心をこめたサービスにも心がけています。たとえば，一人一人のお客さんとのつながりを大切にするように，積極的にお客さんに話しかけることにも心がけています。また，店の中はもちろんのこと，ちゅう車場やトイレなどお客さんが利用する場所はいつも清潔にしています。

わたしたちは，24時間ずっとお店をあけているので，時間をくぎってたくさんの人が交代ではたらいています。

買い物に来た人の話

(4) スーパーマーケット

山川町の国道192号線沿いは，交通量も多く，買い物をする人がたくさん集まってきます。

ここには大きなスーパーマーケットをはじめいろいろな店ができています。

山川町にあるスーパーマーケット

開店前のようす

そうざいづくりのようす

そうざいを作っている人の話

衛生面には特に気を付けています。それぞれのお客さんの味の好みが違うので，多くのお客さんに喜んでもらえるように味付けには苦労します。「そうざいがおいしかったよ。」とか，「お弁当がおいしかったよ。」とか，お客さんが声をかけてくれることが一番うれしいです。

店長さんの話

よりよい品をより安く提供し，お客さんに喜んでもらえるように毎日がんばっています。

また，新鮮な商品を安心，安全に提供できるよう努力しています。お客さんに気持ちよく買い物をしていただけるように店内や作業場は，いつも清潔に心がけています。

商品も，お客さんが見やすく，わかりやすく，買い物がしやすいように商品の置き方や並べ方にいろいろな工夫をしています。

生鮮コーナーでは，その日の夕食のメニューを提案したり，そうざいコーナーではお弁当のおかずを考えたりと，それぞれが毎日，努力しています。

買い物に来た人の話

わたしは，この店によく買い物に来ます。その理由は，肉や野菜，魚が新鮮で種類も豊富だからです。

ちゅう車場も広く，利用しやすいというのもよく買い物に来る理由ですが，この店に来ると，食料品から衣類や薬，日用雑貨まで，いろいろなものが一度にそろうのがうれしいです。

薬のコーナー

日用雑貨のコーナー

2　農家ではたらく人々の仕事

(1)　米づくり（山川町）

吉野川市では，昔から米が作られていましたが，水を確保することが難しく限られた地域だけ米づくりをしていました。その後，電気が通り，ポンプで地下水をくみ上げることができ，用水が整備され，多くの家で米づくりが行われるようになりました。

昔の米づくりは，すべて手作業で隣近所からもたくさんの人が，手伝いに来てくれました。その後，機械とともに田の区画整理が行われ，現在にいたっています。

しろかき　田植え　水の管理　稲かり

（JA 全中　パンフレットより）

●米づくりのくふう

米（稲）は，長い時間をかけて生長するので，米づくりは，気候や気温に左右されることがある上に，水不足に悩むこともあります。そのため米づくり農家の人たちは，いろいろなくふうをしています。

川田西小学校区から川田川堤防まで東に広がる水田は，水の確保にたいへん苦労していたんだよ。

そこで，地域の農家の人たちが話し合い，吉野川から水を取り入ることにしました。

今では，岩津橋の真下にポンプ場があり，そこから水をくみあげて，水を確保しています。

みんなの身近なところにも用水はあるのかな？

山川町でつくられている米の品種ベスト３は，
1．キヌヒカリ　2．イクヒカリ　3．ヒノヒカリ
だそうです。

「コシヒカリ」をつくる方が味もいいし，
高く買ってもらえるんだけどね…。

米づくりカレンダー（山川町）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業・内容	土づくり			育苗 しろかき 種まき							土づくり	
					田植え							
					水の管理							
									収穫			

米を作っている原田さんのお話

イネが育ち，米になるまでには，ほぼ１年かかります。その間，土づくりをしたり，水の管理をしたりとたくさんの作業があります。

安全でおいしいお米をつくるには，きれいな水と心を込めた手入れが必要です。暑い夏の日も，寒い冬の日も作業はありますが，みなさんがおいしいと喜んでくれることが励みになっています。

しかし，最近の農家は高齢化が進み，その上，後を継ぐ人も少なくなってきています。私自身，自分の田畑だけでなく，米づくりをすることが難しくなってきている農家を手伝うことも多くなってきました。

お米は，私たちの大切な主食です。少しでも若い人が農業に携わってくれることを心から望んでいます。

(2)　にんじんづくり（鴨島町）

鴨島町は，農家がつくるやさいの中でも，むかし1965年（昭和40年ごろ）からにんじんづくりがさかんで，県下でも有名なにんじんの産地です。そのわけは，気こうがあたたかく，よくこえた水はけがよい土地だからです。また，農家の人たちもにんじんづくりに力をいれてきました。

●にんじんづくりの農家をたずねて

にんじんをつくっている農家をたずねました。最初に，農家のおじさんから１年間のにんじんづくりについて教えてもらいました。

にんじんづくりの仕事は，９月に土づくりを行い，10月から12月にかけて畑に種をまいて，その上にビニールのトンネルをつくります。

にんじんの収穫は，３月から５月まで行い，ＪＡ（農業協同組合）へしゅっかします。収穫や出荷の時には，家族だけでなく近所の人たちにも手伝ってもらっています。

●にんじんづくりの１年間のしごと

種まき（10～12月）

ビニールのトンネル

収穫（3～5月）

土を洗い流す

大きさを分ける

重さをはかる

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
作業	土づくり		種まき					収穫				

にんじんづくりのしごと（濱田さんの話）

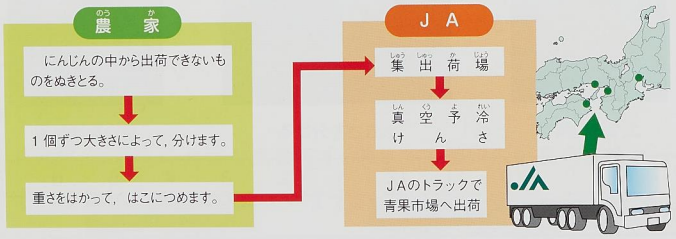
にんじんづくりは，９月の土づくりから始めます。肥料をトラックで何回もはこび，畑にまきます。トラクターで何回も何回もひきおこし，土とまぜます。土とまぜることで，病気に強いにんじんがたくさん取れるようになります。

土づくりができると畑にビニールのトンネルをつくって，10月から12月にかけて種まきをします。種まきから収穫が終わるまでが長いので，にんじんが大きく育っていくまで，ビニールのトンネルの中の温度を調せつしたりと，いろいろ気をつかいながらの仕事は大変です。でも，３月から５月にかけて，大きく育ったたくさんのにんじんがとれたときはうれしいです。

また，わたしのつくったにんじんは，ＪＡ（農業協同組合）を通して出荷しています。みなさんの家庭でおいしく食べてくれるととてもうれしいです。

●にんじんのゆくえ

にんじんは，朝早くから収穫します。とれたにんじんを機械で洗い，大きさごとに分けて，はこづめの作業をして出荷します。徳島だけでなく，東京などの関東地方周辺や大阪などの関西地方周辺，四国・中国地方などへも送られています。



(3) ぶどうづくり（川島町学島）

吉野川市の川島町では，ぶどうづくりがさかんです。学島小学校ふ近から南の方の山を少し上がった所までぶどう畑がたくさん広がっています。

おいしいぶどうを育てるために，ぶどう農家の人たちは一年を通してお世話をしています。

１月のとても寒い時期には，整枝，剪定といって枝を切り，ぶどうのたなにくくりつける作業をします。５月には，花つみをして一枝に１～２ふさ残るようにします。花がさく前に，ふさの形を整えます。６月には，ふさづくりといって，さらにふさの形を整えます。たくさんの実がついたままにしていると，実が小さく味もよくないので，実を少なくし，大きくおいしく育つようにするのです。

そして６月中旬頃から，害虫や病気を防ぐため，また，消毒液がかからないようにするため，一つ一つのふさにふくろをかけていきます。

このように，一年間十分な世話をすることによって，おいしいぶどうができるのです。ぶどうづくりには，農家の人たちの苦労やくふうがつまっているのです。

この辺りは，1962年（昭和37年）から，かん光ぶどう園を開き，ぶどうがりをするようになりました。路地だけでなく，ビニールハウスも利用して，いろいろなしゅるいのぶどうをつくっています。ぶどうはたいへんおいしく，ぶどうがりのきせつには，かん光客がおとずれたり，電話で注文を受けて配達したりしています。

ジベレリン処理
薬をつけて，種なしぶどうにする。

つぶまざきをして，つぶをそろえる

農家の人の話（笹本さん）

おいしいぶどうをつくるために，芽かきといって，いらない芽をとり，養分がぶどうにいきわたって大きく育つようにしたり，種なしぶどうをつくるためのくふうをしたりしています。

上を向いての作業で肩やこしがいたくなり，体はつかれますが，夏がきてりっぱに実ったぶどうを見ると，一年間のつかれや苦労をわすれます。そして，またおいしいぶどうをつくりたいという気持ちがわいてくるのです。

芽かきの様子

●ぶどうづくりの一年

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業	整枝、剪定といって、枝を切り、ぶどうのたなにくくりつける。	（根が動き出す。）	（芽がふくらみ始める。）	芽かきをする。	ジベレリン処理をする。 ふさの整形（花つみ）をする。 花かすを落とす。	ジベレリン処理をする。	よ分なふさを落としたりつぶをまびいたりする。 ふくろがけをする。	収穫し、出荷する。		（葉が紅葉して、落ち出す。）		肥料を入れる。

(4) 畜産（美郷）

わたしたちが食べている肉や卵・牛乳は，牛やぶた・にわとりを育てる畜産によって生産されています。美郷地区には畜産をしている農家があります。

美郷地区の畜産業（2010年（平成22年）調べ）

家　畜	乳牛	肉牛	ぶた	にわとり
数	10頭	226頭	1000頭	106000羽

●養とん場をたずねて

美郷の古井地区にある養とん場では，約1000頭のぶたを飼育しています。ぶたの大きさに合わせてとん舎を分け，ぶたの生活リズムに合わせて仕事をしています。養とん場の中で，種つけや出産も行います。たくさんの仕事を，家族みんなで協力して行っています。

養とん場の仕事

- とん舎のそうじ
- えさやり・健康チェック
- 種つけ・出産
- たい肥づくり
- 出荷

農家の人の話

お産が夜中になるときは，寝ないで看護をします。大変なこともありますが，飼っているぶたは愛情を持って育てています。おいしくて安全なお肉になるように，いつも努力をしています。

3　工場の仕事

(1)　部品工場の仕事

●工場のようす

山川町の国道192号線から南に100ｍくらい入った所に1868（明治元）年につくられたスピンドル工場があります。この工場では132名の人が働いています。

阿波スピンドル本社工場

高い技術から，日本国内はもちろん，世界の国々から，様々な種類のスピンドルの注文があります。

●スピンドルって何？

身につけている下着や洋服，これらはすべて糸からできていますが，その糸を作る作業を行うのに必要なのがスピンドルです。スピンドルがスピン（回転）して，その回転力で糸に撚りをかけ，巻き取っていきます。

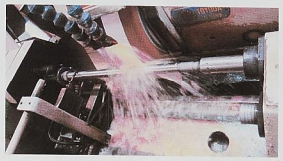
●スピンドルの作り方

①切断…棒状の鉄を製品の大きさに合わせてあるていどの長さに切断する。

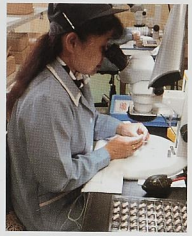
②旋削…切断された鉄の棒をさらに旋削加工して製品の形にする。

③焼入…熱を入れ，鉄をかたくじょうぶにする。

④研削…かたくなった鉄を，砥石で１／1000mmの精度で削る。



⑤検品…顕微鏡を使い，人の目で細部まで検品する。合格した製品のみが出荷される。



⑥完成

●スピンドルのゆくえ

工場でつくられたスピンドルは，日本国内はもちろん，世界中の国々へ輸出されています。

工場で働く人の話

お客さんに喜んでもらえるような商品を作るために，毎日努力しています。

世界中の会社からいろいろな注文があり，むずかしい注文も多くありますがその要望に答えられるようによい品質で，価格をおさえ，納期をまもれるようにがんばっています。

最近では，阿波スピンドルの製品で機械のエネルギー効率をあげ，消費電力が１／２におさえられるような商品づくりにも努力しています。

また，未来で使える新しい商品の研究，開発もしています。

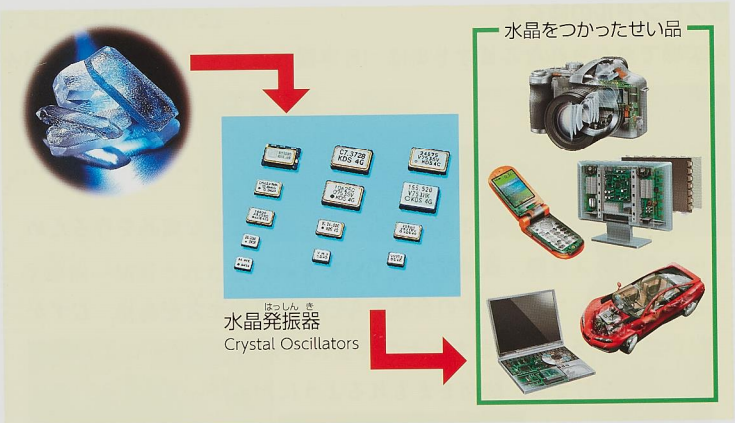
(2) 中央工業団地

●工場のようす

中央工業団地にある電子部品工場をたずねてみました。この工場は，1984（昭和59）年にたてられ，いま，やく250名の人がはたらいています。はたらいている人は，吉野川市内だけではなく，徳島市，石井町，板野郡，阿波市，美馬市からも，車・バイク・自てん車で来ています。

●人工水晶・電子部品のできるまで

この工場では，ブラジルから船ではこばれてきた石英という白いとうめいな石から人工水晶をつくり，その水晶から電子部品をつくっています。



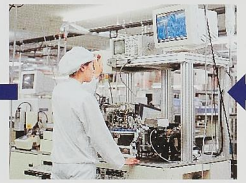
けいたい電話やパソコンなどの電子機器はコンピュータによって情報をコントロールしています。この情報をスムーズに伝える役割をしているのが，人工水晶からつくられた電子部品です。

原料をいったん溶かして人工水晶を作る

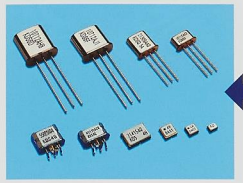
できあがった人工水晶

人工水晶をみがく

人工水晶の板と部品を組み立てる



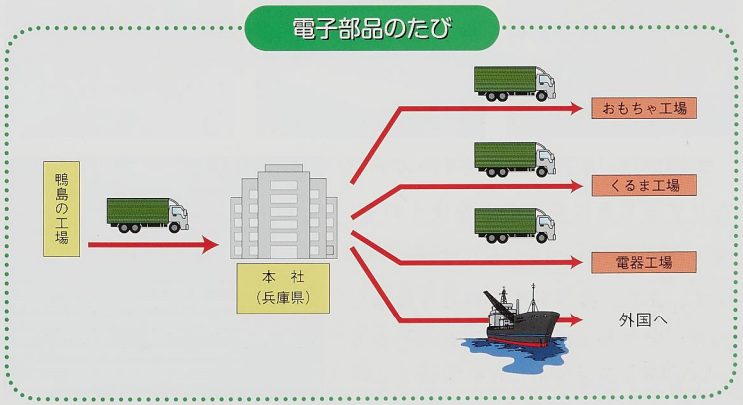
けんさをする



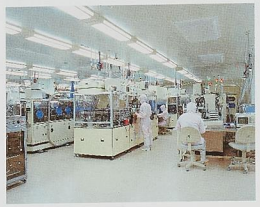
できあがった電子部品

●電子部品のゆくえ

できた電子部品は，いったん兵庫県の本社に送ります。その後，トラックで国内のおもちゃ工場や車工場に運ばれたり，船で外国へ輸出されたりしています。



●はたらく人のくふう



人工水晶の板が細かいものなので，とても気をつかいます。部品のしゅるいが多いので，まちがうことのないよう気を付けています。

よりせいみつなせい品をつくるために，へやの温度やしつ度をいつも一定にしています。また，電子部品は，かみの毛・つば・ほこり・けむりなどをきらうので，ぼうしやマスクをつけるなど決められた服そうをしています。へやに入るときもエアーシャワーで体をきれいにしてからクリーンルームに入ります。

つくった電子部品は，けい帯電話・カーナビゲーション・パソコン・ビデオ・カメラなどいろいろなせい品に使われています。世界中のいろいろなところで利用することができるよう暑さや寒さにもこわれることのない強いせい品をつくっています。

せい品がたくさんの人から信らいされるようにテストやけんさもきちんとしています。

●環境を守る努力

工場では，水晶を切ったり，みがいたりするときに多くの水を使うので，使った水をきれいにするしせつがあります。また，必要のない電とうは消したり，エアコンの温度を調せつしたりして資源や環境を大切にしています。

(3) ドア工場の仕事

●ドア工場の見学

阿波麻植大橋の南，川島町三ツ島の国道に近いところに，ドアをつくる工場があります。

しき地の中には，工場やじむしょ，そうこ，ショールーム，食どうなど，いくつものたてものがならんでいます。

この工場では，157人が，午前8時30分から午後5時20分まではたらいています。主にホテルやマンションのドアをつくっていて，この工場で，全国のドアの5分の1がつくられています。

●ドアができるまで

設計する

鉄板を切る

鉄板にあなをあける

鉄板のはしをおりまげる

しん材をはさみせっ着する

部品をつける

こんぽうして出荷する

工場ではたらく人のしごとと人数	
せっけいをする人	27人
組み立てをする人	82人
はん売・じむの人	48人

●ざいりょうはどこから・できあがったドアはどこへ

ドアをつくるには，鉄板・しん材などのざいりょうがひつようです。このざいりょうは，日本の各地から送られてきます。

できあがったドアは，トラックにつまれて日本全国に運ばれ，使われます。

ざいりょうとなる鉄板

できあがったドア

工場ではたらく人の話

わたしたちは，安くて，安全で安心して使うことができるドアづくりをめざしています。そのために，毎月会ぎを開き，火事のときに燃えにくく，地しんのときにこわれにくいドア，指つめ防止のドアなど，よりよいドアづくりにつとめています。

この工場では，注文によって，それぞれのホテルやマンションに合わせたドアをつくります。そのたびに大きさや色や部品がちがうので，つくるのがたいへんですが，お客様に気に入ってもらえるように，なっとくいくドアをつくろうとがんばっています。

3 かわってきた人々のくらし

1 古い道具と昔のくらし

わたしたちは，昔のくらしのようすを知るために，吉野川市ふるさとセンターへ行って調べてみることにしました。ふるさとセンターには，昔，くらしの中で使われていた道具がたくさんありました。

ふるさとセンターにてんじしてある道具

糸車（いとぐるま）

わたを糸にするときに使う道具。車を回すと，反対側にあるぼうが回って糸をつくる。

蓑（みの）と笠（かさ）

茅や菅わらなどの，くきや葉をあんで作った雨具。

火熨斗（ひのし）

中に炭火を入れて，衣類のしわのばしや形なおしに使われた。

今のアイロンのように，簡単に温度調節ができないので，手ぬぐいをぬらして，布とアイロンの間にしいて使った。

碾き臼（ひきうす）

大豆を粉にしてきなこを作ったり，小麦を粉にしてうどんのもとを作ったりしていた。

徳利（とっくり）

お酒を入れておいた道具。昔は，量り売りといって，必要な量だけ買って，徳利に入れてもらっていた。

箱膳（はこぜん）

一人分のご飯やおかずをのせて食べていた。食事の後は，箱の中に食器をかたづけるようになっている。

釜（かま）

ご飯をたく道具。かまどで，たき木を使って火をおこし，たいていた。これでたいたご飯は，おこげがあって，とてもおいしい。

ランプ

石油を燃料とし，これに芯を入れて，火をつけ明かりをともした。

柱時計

柱やかべにかけておく時計。ねじをまかないととまるので，時々ねじをまいていた。

提灯（ちょうちん）

中にろうそくを入れて使っていた。小さいのは，手さげちょうちんで，夜，外出のときに使った。大きいのは弓張ちょうちんといって，お盆やお祭りに家の軒につるして使った。

火鉢（ひばち）

炭をおこして火鉢に入れ，手をあたためたり，鉄びんなどでおゆをわかしたりした。寒い朝，炭に火をつけるのは，大事な仕事で，なくてはならない暖房器具だった。

時代とともに，使われる道具もずいぶん変わってきました。昔の道具を見ながら，当時の生活を想像してみましょう。そして，みなさんも身のまわりにどんな道具があるか調べてみましょう。

2　のこしたいもの，つたえたいもの

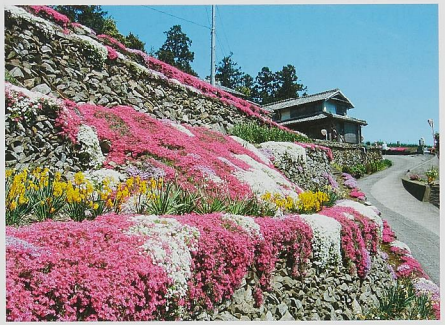
市には，昔の様子を伝えるものがたくさんあります。祭りのように昔から伝えられ，行事となっているもの，石碑やたてもののように形で残っているもの，古い本や写真，言い伝えなどいろいろあります。

●五九郎祭り

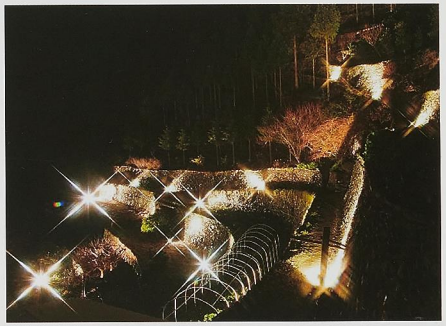
曾我廼家五九郎は，1876（明治9）年上下島村に生まれました。14さいの時東京に出て，やがてしばいを始めました。そして，劇団を作り，1910（明治43）年ごろから東京の浅草でたいへんな人気者になり，「浅草の喜劇王」と呼ばれました。

鴨島町では，五九郎を記念して6月さいごの土曜日に中央通りで五九郎祭りをしています。ＪＲ鴨島駅前の広場には，五九郎の石碑があります。駅前通りでは，五九郎仮装コンテストなどのイベントや鳳翔太鼓・五九郎太鼓などの演奏が行われます。

●高開の石積み



高開地区の石積み



ライトアップされた石積み

美郷では，昔から急な山の斜面に家を建て，農地を開いてくらしていました。そのため，昔から伝わる石積みで石垣を造って，家や段々畑を守ってきました。美しい石積みは，地区の生活や文化，歴史の象徴として，市民の誇りとなっています。

段々に造られた石積みは山頂まで連なっており，まるで空に続く階段のように見えます。大神地区のなかで最も高いところにある高開の石積みは，文化庁の「文化的景観」重要地域に選定されています。また，2009年には「にほんの里100選」にも選ばれました。

毎年4月には色鮮やかなシバザクラが見ごろをむかえ，シバザクラまつりが行われます。また，12月には石積みのライトアップが行われます。この石積みの優雅で幻想的な姿は，全国的に知られており，毎年たくさんの観光客が訪れています。

●秋祭り（川田八幡神社祭　山川町川田）

川田八幡神社の秋祭りは，「川田祭り」とも呼ばれ，毎年10月22日に行われています。屋台が神社の急な階段を登り降りする様子は勇壮で，県内外からたくさんの人が，見学に訪れます。また，「神代お宝踊り」や「浦安の舞」も奉納されています。

川田八幡神社「秋祭り」

神代お宝踊り

浦安の舞

3　昔さがしをしよう

(1)　鴨島町の昔さがし

監物堤のあと（監物が作った土手）

稲垣神社

今からおよそ260年前（江戸時代），牛島村は，大水がくるたびにいねや家，牛，馬などが流されました。そこで村の人びとは，土手を作ろうと計画しましたが，一部の人に反対されたり，殿様が工事をゆるさなかったりしたため，土手はできませんでした。

牛島村の役人であった稲垣監物は，人びとの苦しみをみすごしてはおけず，一晩のうちに村の人たちといっしょになって土手を作りました。そして，役人であるにもかかわらず，殿様のきょかを得ずにかってに作ったことの責任をとって切腹しました。監物の作った土手のおかげで被害は少なくなり，安心してすごせるようになったということです。

今も牛島小学校の北側には，監物堤のあとが残っており，監物をしたって牛島の桑上に稲垣神社が建てられています。

藤井寺（第11番札所）

へんろ道の道しるべ

鴨島町飯尾にある藤井寺は，四国八十八カ所霊場第11番札所です。藤井寺の名は，この地をおとずれた弘法大師が，八畳岩の上に護摩壇を築き，17日間もの間修行をおこない，自ら作った薬師如来像をまつる堂の前に五色の藤を植えたことに由来しています。

切幡寺（第10番札所）から藤井寺までの道は，おへんろさんがよく通る道です。この道のいたるところにおへんろさんがわかりやすいように藤井寺への道しるべが建てられています。この道しるべには，建てた人の名や年・月・日などがきざまれています。

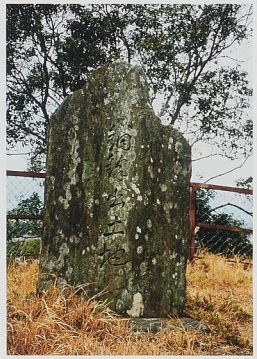
江川湧水源

吉野川遊園地跡の西側にわき水があります。ここに出る水は，とてもすみきっており，その温度にも不思議なものがあります。わき出る水の温度は，夏は冷たく10度ぐらいになり，冬は反対に20度くらいに上がります。とてもめずらしいので，1954年（昭和29年）（今からおよそ50年前）に県の天然記念物になりました。

また，1985年（昭和60年）には国の環境庁によって名水百選（全国から選ばれた百の有名な水）の一つに選ばれています。

(2) 川島町の昔さがし

銅たく



銅たくが出た場所

弥生時代（今から2000年以上前）につくられた銅たくが，川島城あとから見つかりました。

大日寺の礎石

大日寺にあった塔の土台といわれています。

大日寺あと

1300年あまり前につくられた，県下でもっとも古い寺の一つといわれています。

上桜城あと

今から約700年くらい前につくられたお城のあとです。

峰八のししかぎ

今から400年ぐらい前に，この土地に住みついた人々が山を切り開き，土地をたがやして新しく田や畑をつくりました。しかし，作物をつくっても，うさぎが豆を食べたり，しかや，いのししがいねや麦をあらすので，収穫は少なかったのです。

収穫をふやしたい農民たちは，このことで長い間こまっていましたが，今から約220年ほど前に，土地の人々の協力によって，全長4kmにもおよぶししかぎ（けものをふせぐかき）がつくられました。

ししかぎ建設記念碑

二ツ森

神社があり，ふきんには大きな松もあり昔からながめの良い所として多くの人に親しまれてきました。

(3) 山川町の昔さがし

忌部山古墳群

忌部山の標高約240mの忌部神社裏山にある後期古墳群。

境谷古墳

横穴式石室を主体とする円墳。町内で発見された古墳の中で最大。

▲井上城址

青木城址▶

昔，お城があったあとで，どちらも，町内の高台にあります。

船窪つつじ公園（国指定天然記念物）

高越寺から尾根続きに南へ約3km。標高1,060m，面積3.5haの窪地にあり，オンツツジ・ミツバツツジなど約1,200株のつつじが大群生しています。木の高さは5～6mにもなり，花の咲く5月にはたくさんの観光客でにぎわいます。

西川田の大ぐす

吉野川の堤防，楠木神社の境内にある樹齢300年余り，高さ20m周囲21mの大ぐすです。

山崎八幡神社の大イチョウ

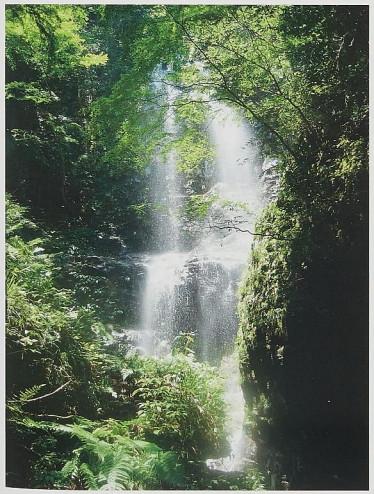
山崎八幡神社の北東のすみにあり，樹齢100年，周囲6.3m，高さ25mの大イチョウです。

(4) 美郷の昔さがし

中枝平八幡神社境内の大いちょう

美郷字平にある平八幡神社の境内にある大いちょうは、樹齢300年以上といわれる巨木で、市の天然記念物に指定されています。

大いちょうの太さは4.9メートル、高さは22メートルで、秋の終わりごろには葉が黄色く色づきます。



母衣暮露滝

川田川の源流にあるこの滝は、30メートルの高さから三段のすだれのように水が落ちてきます。

昔から多くの人々が願いをかなえるために、この滝をおとずれ、日が暮れるのも忘れてお祈りをしたといわれています。

4　くらしのうつりかわりの年表

いつ	年号	今から何年前	くらしのうつりかわり
おじいさん・おばあさんがうまれそだったころ	明治	140年前	・郵便の仕組みができた。 ・石油ランプを使い始めた。
		130年前	
		120年前	・徳島市に電灯がついた。 ・徳島，鴨島間に鉄道ができた。
		110年前	・日清・日露戦争があった。
	大正	90年前	・関東大震災がおこった。 ・養蚕がさかんになった。 ・紙芝居が街頭にあらわれた。
		80年前	・徳島にラジオ放送局（NHK）ができた。 ・太平洋戦争が始まった。 ・食べる物や着る物が不足した。
	昭和	70年前	・太平洋戦争が終わった。 ・昭和南海地震があった。 ・新しい学校の制度になった。
		60年前	・中央橋ができた。
		50年前	・カラーテレビ放送が始まった。
		40年前	・瀬詰大橋ができた。 ・オートバイや自動車の数がふえた。

いつ	年号	今から何年前	くらしのうつりかわり
お父さん・お母さんが生まれそだったころ	昭和	30年前	・国道192号線が開通した。 ・阿波麻植大橋ができた。 ・国道193号線が開通した。
	平成	20年前	・大鳴門橋がかかった。 ・新しい岩津橋ができた。 ・阪神・淡路大震災がおこった。
		10年前	・徳島自動車道が全線開通した。 ・徳島中央広域連合（消防署）ができた。 ・西条大橋が開通した。 ・鴨島町・川島町・山川町・美郷村が合併して吉野川市が誕生した。
わたしたちが生まれそだったころ			・東日本大震災がおこった。

4 くらしを守る

2 事故や事件からくらしを守る

(1) 交通事故のようす

生活が豊かで便利になると同時に，吉野川市でも多くの車が通るようになってきました。そのため，交通事故もふえています。

交通事故のようすを調べてみると，追突事故が一番多く，出会いがしらのしょうとつ，右左折時のしょうとつと続いています。

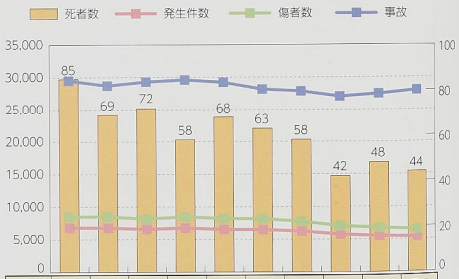
その原因の多くは，前方不注意や安全不かくにんです。

2010年（平成22年）中の交通事故による死亡者数は，全国では4,863人，徳島県でも44人となっています。私たちの住む吉野川市では，2人となっています。

また，最近では特に，お酒を飲んでの運転や，それにともなう事故により，大きな事故を引き起こしてしまう事件が目立つようになってきています。

全国の交通事故死者数の推移

徳島県下の交通事故



区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
発生件数	6,822	6,793	6,583	6,774	6,537	6,494	6,251	5,760	5,509	5,382
指数	100	100	96	99	96	95	92	84	81	79
死者数	85	69	72	58	68	63	58	42	48	44
指数	100	81	85	68	80	74	68	49	56	52
傷者数	8,500	8,491	8,155	8,477	8,198	8,158	7,729	7,041	6,762	6,499
指数	100	100	96	100	96	96	91	83	80	76
物損事故	29,503	28,722	29,313	29,612	29,217	28,156	27,849	27,025	27,456	28,019
指数	100	97	99	100	99	95	94	92	93	95

（平成22年度とくしまの交通事故）

(2) 子どもの交通事故

子どもの事故のうちでもっとも多いのが，交差点での飛び出しです。

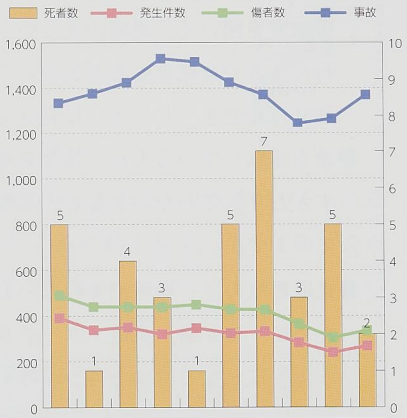
つぎに，自転車の前や後ろをわたったり，道路で遊んだりして事故にあっています。

2010年（平成22年）は，吉野川市でも14件の交通事故が起こっています。歩くときだけでなく，自転車に乗っているときも，正しいルールを守って，交通事故にあわないようにしましょう。

平成22年中の交通事故

	全国	徳島県	吉野川市
発生件数	725,773件	5,382件	269件
死者数	4,863人	44人	2人
傷者数	896,208人	6,499(重傷554)人	336(重傷33)人

吉野川市警察署



区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
発生件数	392	339	351	321	347	325	333	284	241	269
死者数	5	1	4	3	1	5	7	3	5	2
傷者数	490	440	440	439	449	429	427	365	305	336
物損事故	1,336	1,377	1,425	1,530	1,516	1,426	1,372	1,246	1,267	1,371

(3) 安全なまちづくり

交通事故をふせぐために，わたしたちの地域ではどんな活動をしているのでしょう。

みなさんは，交差点や横断歩道のある場所で交通しどうをしているけいさつ官のすがたを見ることがありますね。けいさつ官が，交通事故をふせぐために，どのような仕事をしているかをまとめてみます。

けいさつ官の仕事

- 歩行者がきけんな目にあわないように交差点などに立って見守っています。
- 正しい歩行のし方や自転車の正しい乗り方についてしどうしています。子どもだけでなく，お年寄りなどに対しても，交通安全教室を開いて，道路の正しいわたり方や自転車などの正しい乗り方などを，じっさいに見せながら説明しています。

- 車を運転している人が，信号を守らなかったり，スピードを出しすぎたりしていないかなど，事故をふせぐための取りしまりをしています。
- 交通事故の多い場所やその原いんをくわしく調べて，安全を守るために，信号機，歩道，ガードレール，カーブミラーなどをつけるように県などにはたらきかけています。

けいさつ官以外に，私たちの学校でも毎月決めた日に，家族や先生方・交通しどう員の方などが，朝，交通しどうをして，安全に気をくばってくれています。

このように，交通事故から私たちを守るために，地いきの人々すべてが努力してくれていることをわすれないでください。

5 住みよいくらしをつくる

1 水はどこから

(1) 上水道のあゆみ

昔は，井戸や川の水などをくんで飲み水にしていましたが，明治時代にコレラなどの伝せん病が大流行しました。水道をつくってほしいという声が高まり，1945年（明治20年）に横浜市に日本で最初の近代的な上水道がつくられました。

その後，明治から昭和にかけて全国に上水道が次々とつくられました。

(2) 吉野川市の上水道のあゆみ

吉野川市は，井戸や川の水がきれいだったので，上水道がつくられるのはおそく1960年（昭和35年）ごろが始まりで，今まであったかんい水道を利用して，上水道ができました。

水道のあゆみ	
1960年(昭和35年)	山川町に上水道ができる。
1973年(昭和48年)	川島町に上水道ができる。
1974年(昭和49年)	鴨島町に上水道ができる。
	上水道を広げる工事をすすめる。
2004年(平成16年)	市町村合併により，吉野川市上水道が始まる。

※かんい水道とは，給水人口が100人を超え5,000人以下であるもの。

(3) 生活に欠かせない水

水は毎日の生活に欠かせないものです。わたしたち人間は，1日に約1リットルから1.5リットルの水を飲んでいます。食べ物から体の中に入る水分を含めると，1日に2リットルから3リットルの水を摂取しています。

みなさんは，毎日のくらしの中で水道の水を使わない日はないと思い

ます。水を飲むほかに，朝起きると顔を洗ったり，歯をみがいたり，外から帰ると手を洗ったり，料理やせんたく，おふろやそうじ，トイレなどにも水道の水を使うと思います。みなさんの家や学校だけではありません。工場や病院で使う水，火事になった時に消火する水にも使われています。

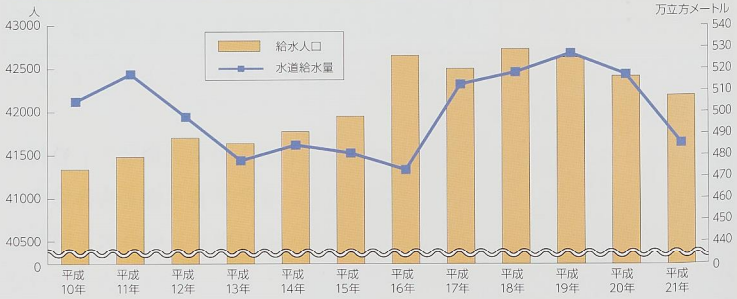
このように，水道のしせつは24時間休みがありません。いつでもきれいで安全な水道水が使えるようにしています。吉野川市のほとんどの人たちが水道をりようしています。

また，これからは地しんに強い水道しせつの計画をしています。

(4) 水の旅 ― 飲み水がつくられるしくみを調べる。―

吉野川市上水道の水源は，井戸をほり地下水(※1)をくみ上げています。それから消毒をして，飲める水にしています。吉野川市は，吉野川が近く水が豊かです。また，地下で自然のろ過が行われ，水質もよく安定しています。飲める水は，水源池から配水池へ送られ，配水池からは自然流下(※2)により，家庭や学校などに送られています。水道の水は，道路の下や地中に埋めてある水道管を通って，配水池や家庭・学校などに送られています。吉野川市全体で水道管の長さは，約400km以上あります。

※1　地下水 ― 雨水が地面にしみこんで地中深く流れる水のこと
※2　自然流下 ― 高い所から低い所へ流れる働き



吉野川市の給水人口と水道給水量のうつりかわり

(5) 水はきちょうな資源

地球上の水のほとんどは海の水です。水道に使える真水は0.8%にすぎません。このわずかな水を，わたしたち人間がたくさん使いよごしてきたため，きれいな水が少なくなってきています。

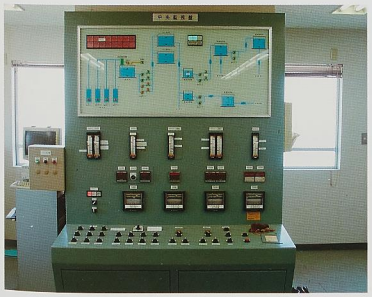
地球上には，約65億人の人がいます。その中で20億人以上の人が水不足で悩まされ，10億人以上の人が安全な水のりようができていません。

このように大切な水なので，みなさん水道の水をむだなく上手に使ってください。

《飲み水をつくるための機械》

消毒する機械と薬液層
浄水池などに消毒液を送る機械です。

遊離炭酸除去装置
水中にとけている炭酸ガスを取り除く機械です。



そうさばん
ポンプや消毒する機械を動かすそうちです。

もっとしらべよう

鴨島・山川地区上水道

井　戸

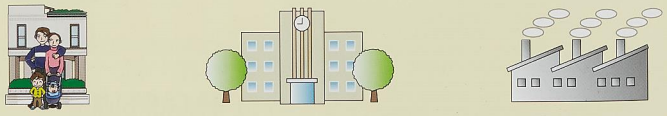
取　水　場

消　毒
（次亜塩素酸素ナトリウム）

配　水　池

配水池（はいすいち）

家庭　学校　工場



もっとしらべよう

川島地区上水道

井　戸

じょう水池

配　水　池

遊離炭酸除去装置 ※1

消毒（次亜塩素酸素ナトリウム）

じょう水池

低い地域　高い地域

低区　配水池　高区　配水池

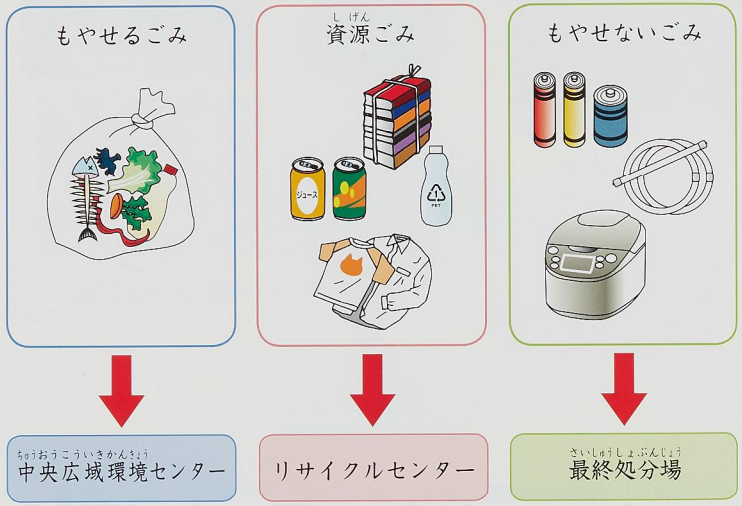
家庭　学校　工場　家庭　学校　工場

※1　遊離炭酸…水中にとけている炭酸ガスのこと。炭酸ガスが多いと水のまろやかさが失われ、水道施設の障害になる。

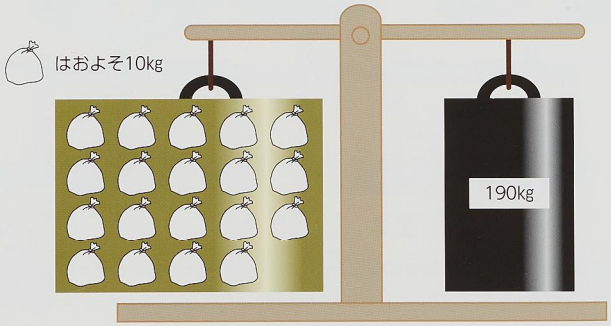
2　ごみの処理と利用

(1)　ごみのゆくえ

みなさんの家から出されたごみはどうなるか知っていますか。ごみは大きく分けると下のように３種類に分けられます。そして，種類ごとにごみ収集車が取りに来てくれて，清掃工場へ運ばれます。

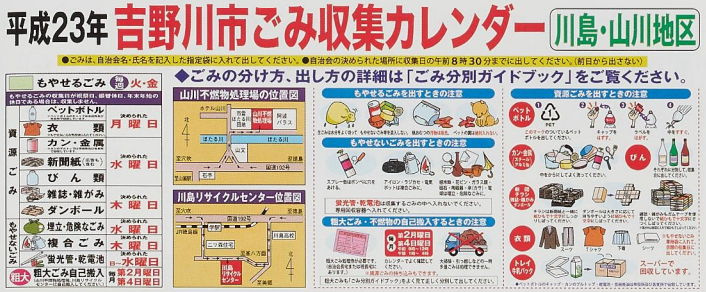


市民１人あたりが１年間に出すもやせるごみの量（平成 21 年調べ）



●ごみ収集カレンダー

みなさんの地域のごみ収集カレンダーを調べてみましょう。



(2) 中央広域環境センターをたずねて

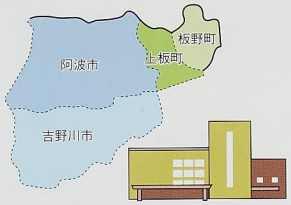
●中央広域環境センター

阿波市吉野町にある清掃工場を「中央広域環境センター」と言います。この環境センターは，吉野川市・阿波市・板野町・上板町の２市２町が集まり，約100億円のお金をかけて，2005年（平成17年）７月に完成しました。

環境センターには，現在，約110,000人の出すごみが集まってきています。

吉野川市	44,034 人
阿波市	39,255 人
板野町	14,245 人
上板町	12,735 人

2010年（平成22年）調べ



計　110,000 人

中央広域環境センター

●ごみ処理とくふう

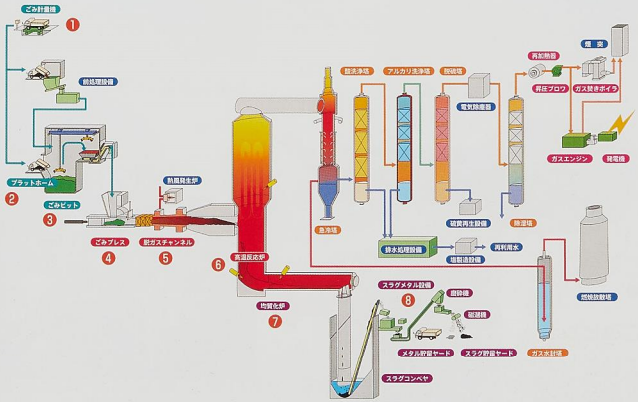
もやせるごみが，しゅう集車にいっぱいつみこまれて環境センターにくると，ごみ計量機で，中に入っているごみの重さをはかります。そして，施設の中へ運ばれます。

ごみの量は市や町ごとに集計しています。その量によって，市や町で分けてお金を出します。

環境センターの係の人の話

環境センターでは，いつも中央制御室で機械のようすをかんししして，１日に120トンのごみを処理しつづけています。

ごみは1600度の高い温度でガスと溶けた灰になります。出てきたガスは，自然や体に悪いものを取りのぞいて，工場の中にある発電機の燃料にしています。溶けた灰は，水で冷まされてガラスのような固形物（スラグ）となり，道路工事の材料になります。



環境センターのしくみ

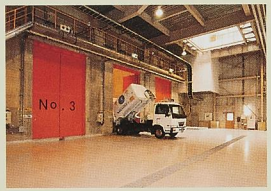
処理するじゅんじょは，

- ごみピットにごみをためて，クレーンでごみをまぜる。
- クレーンでごみをつり上げ，投入し，ごみを５分の１に圧縮する。
- 脱ガスチャンネルというところでごみを乾燥させる。
- 高温反応炉に送り出される。反応炉の中では，温度が1,600度くらいになり，今まで最終処分場にうめたて処理していた焼却灰まで溶かしてしまいます。ここで，出てきたガスは，まず，水のシャワーをとおして温度を急速に下げてダイオキシンの発生をおさえます。さらに，さまざまな薬品でガスをきれいにし，電気しゅうじんきでガスの中の小さなほこりまでとりのぞきます。きれいになったガスは，工場内のガスエンジンの燃料にして発電し，施設内の電力の約25パーセントをまかなっています。

❶ごみ計量機

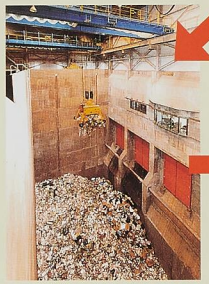
ごみの重さをはかる。

❷プラットホーム



ごみを入れるとびらが４つある。

❸ごみピット

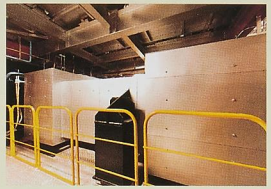


かくはん（混ぜる）する。

❹ごみプレス

ごみを圧縮する。

❺脱ガスチャンネル



ごみを乾燥させる。

❻高温反応炉

ごみを高温でとかす。

❼均質化炉

溶けたものの質をそろえ，その後水砕ピット（大きな水そう）で冷やす。

❽スラグ・メタル設備

コンベアで運ばれる。

処理されたごみはすべてリサイクルされます

主なもの

メタル

工業塩

スラグ

＊中央広域環境施設組合発行のパンフレット「中央広域環境センター」の図や写真を使用させていただいています。

●はたらく人の努力

環境センターの係の人の話

わたしたちは，24時間，3交たいでしごとをしています。1班は5人で，4班で交たいしています。25日間連続運転すると，点検などのために，20日間運転をとめています。

ごみの処理をするためには，1日に300万円以上もの費用がかかります。ごみを細かく分別して集めているのも，燃やすごみの量をできるだけへらすためです。

ごみの量がふえるにつれて，燃えないごみや，ごみを燃やしたあとの灰をうめ立てる場所がなくなってきました。そこで，市では，ごみの量をへらすために，資源になるごみの再利用にも力を入れています。あきかんやあきびん，ペットボトル，大型ごみや燃えないごみから分別した鉄などは，再生工場に運ばれて再利用されます。

さらに，この環境センターでは，ごみを燃やすときに出るガスを利用して，発電しています。その得られた電気はセンター内の機械を動かすために，使われています。

わたしは，小さいころ，よく吉野川に遊びに行っていました。そのときに，川にごみがいっぱい落ちていました。「どうしてなんだ。きれいにしたいなあ。」と思いました。それ以来，環境をよくするしごとをしたいと考え，今のしごとをするようになりました。

みなさん，お願いがあります。それは，しっかりとごみ処理のことについて知ってほしいし，また，関心をもってもらいたいということです。そして，ごみの分別をきちんとして，協力してほしいです。家ぞくの人にもよびかけてください。みんなでごみをへらして，美しい市にしていきましょう。

●わたしたちにできること

吉野川市では，収集された燃やせるごみと粗大ごみは，中央広域環境センターで高温で溶融（とかす）処理をしています。しかし，ごみの量が年々増加しています。また，吉野川市にかぎらず，世界中でごみの処理が大きな問題になっています。このようなごみの処理は，どのようにすればよいのでしょうか。

環境センターの人からのお願い

ごみをきちんと処理する以前に，一人ひとりがごみをなるべくつくらない工夫が大切ですね。買う前に，本当に必要なものかを考えたり，不要になったものでも，できるだけ繰り返し使う（リユース：再使用）ようにしましょう。吉野川市では，次のようなごみの減量化に取り組んでいます。みなさんも協力をしてください。

- 雑紙の資源化（「雑紙」は「雑誌」の収集日に出してください。）

  燃やせるごみの約3割を雑紙がしめています。雑紙が100%排出されなくなると，市のごみ処理費を21%削減することができます。焼却すると1kgあたり50円の経費がかかり，回収すると1kg14円（平成20年換算）の収入となります。

- 生ごみの堆肥化

  生ごみを肥料にできる「段ボールコンポスト基材（ピートくん）」を無料で配布しています。生ごみで堆肥を作りませんか。

●知っていますか

これらのマークは，かんきょうにやさしいせい品や再生紙を利用してつくられているせい品などにつけられています。

●くらしをささえる電気

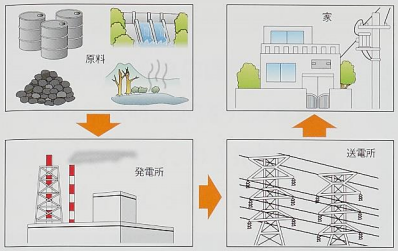
みなさんの学校に，48枚の太陽パネル（太陽電池）がやってきました。太陽パネルって何でしょう？どんなはたらきをするのでしょう？

太陽の光を明るさや熱として利用するのではなく，この太陽パネルに太陽の光を当てて電気をつくるのです。これが太陽光発電です。風力や地熱・作物の捨てる部分を利用した（バイオマス）発電などと同じで，地球温暖化を引き起こす二酸化炭素を出さず，太陽があるかぎり発電をし続けるクリーンな発電そう置です。今，日本は，石油や石炭などのエネルギー資源のほとんどを外国からの輸入にたよっていますが，こうした化石燃料は，使い続けるとなくなってしまいます。太陽の光といういくら使ってもなくならないエネルギーを活用する太陽光発電は，エネルギー資源問題を解決してくれるすばらしい力になっています。

生活が便利になると，使う電気もどんどん増えていきます。こんなにたくさんの電気をどうやってつくっているのでしょう。

現在，日本では，石油・石炭・水・ウラン・天然ガス等を原料にして「火力・水力・原子力」発電を中心に発電所で電気を作り，送電線を通じてみんな

電気の旅

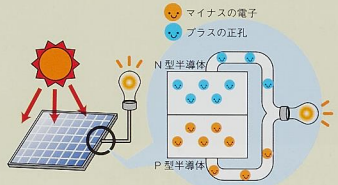


の家や学校に電気を運んでいます。昔は，石炭や水力などの天然資源を使って，自分の国でたくさん電気をつくることができていました。しかし，今の日本は，電気の原料のほとんどを外国から輸入しているため，ほかの国に比べると自分の国の力でたくさんの電気をつくるのがむずかしくなっています。

太陽光発電は，太陽のエネルギーを電気エネルギーに変えて発電を行います。太陽光パネル（太陽電池）に光があたると，その光のエネルギーは，太陽電池内に吸収され，プラスとマイナスの電気のつぶが発生します。これを電線でつなぐと電気が流れます。太陽光発電は，発電する時に公害物質や二酸化炭素を出さず，クリーンで地球環境にやさしいシステムです。

太陽電池のしくみ

太陽電池に光が当たると，その光のエネルギーは太陽電池内に吸収され，プラスとマイナスの電気の粒が発生し，これを電線でつなぐと電気が流れます。



吉野川市は，このシステムを取り入れ，各学校に太陽光パネルを設置し，自分たちの学校で電気を作っています。発電した電気は学校で使います。電気があまった時には電力会社からくる配電線にもどし，雨天時など電気が不足した時には配電線から電気の供給を受けます。電気を作るために必要な資源には限りがあります。電気のむだな使い方を見直し役に立つ使い方を考えることが大切です。

このようにして，吉野川市では，節電や資源の有効な利用に協力しています。学校や家庭で，みなさんが節電のために協力できることはありませんか？「節電・省エネ・エコ生活」について考えてみましょう。

6 きょう土をひらく

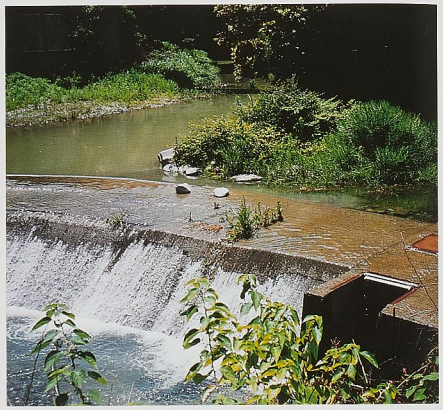
1　山ろくに広がる用水

(1)　さまざまな用水のくふう

●川俣用水（山川町）

①　地域の人々の願い

山川町には，「青木でんだい」とよばれる広々とした田んぼがあります。そこは，山川町で米のたくさんとれる所です。しかし，高台にあるため昔は水の便がわるく，さつまいもや桑などしか作られていませんでした。だから，だれもが「米を多く作りたい。」「そのために水がほしい。」と願っていました。



川俣用水取り入れ口

今から150年ほど前の江戸時代から，麦原や青木という畑作地に川田川の上流の川俣から水を引いて池にしようという計画がありました。しかし，水を引くにはけわしい山やかたい岩が多く，とてもできる工事ではないと反対する人もあり，人々の願いは，長い間実現されることがありませんでした。

岩をほって作ったトンネル

②　用水路づくりの運動

1894年（明治27年）の夏の日照りは特にひどく，のう作物のしゅうかくはほとんどないといってよいくらいでした。これをきっかけに，川俣用水をつくろうと松村由助・藤原初三郎・工藤貫一・佐藤武五郎らが立ち上がりました。

川俣用水路開さくに努力した人々の記念碑

③　用水路づくりのくろう

川俣用水をつくる計画をした当時，川田川の上流で水を川俣用水にとられてはたいへんだと，もうれつな反対がありました。また，用水路をつくるためには，たくさんの費用が必要でした。貧しい生活をしていたのう家の人々には，用水路をつくりたくても，その費用が年々のしかかってくることから，用水路づくりがひなんされました。

川俣用水をつくろうと最初に計画した松村由助は，とくに強いひなんを受け，竹やりで命をねらわれたこともあったそうです。

川俣用水を作ろうと最初に計画した麦原の松村由助さん

しかし，このような反対やひな

んにあっても，用水をつくろうと立ち上がった人々は，くじけることなく用水路づくりの運動を進めていきました。

④ 用水路の完成

1894年（明治27年）12月，地方長官のゆるしをもらうことができました。そして，ようやく1896年（明治29年）水利組合が結成されました。しかし，まだまだ反対する人は多く，なかなか工事を進めることができませんでしたが，根気強い説得により，1898年（明治31年）6月に工事を始め，1899年（明治32年）6月に川俣用水ができあがりました。

工事は，山がたいへんけわしく3カ所の岩をほりぬいて，トンネルを作り（約200m），全長約7kmの用水がやっとできあがりました。

この川俣用水ができたおかげで，青木や麦原などの約100ヘクタールの水田がうるおされるようになりました。その後，何回も改修工事が行われ，今の用水になりました。

今の川俣用水

●麻名用水

吉野川市には，徳島県にある用水の中でも特に長い「麻名用水」があります。川島町から石井町まで流れているこの用水の名前は，麻植郡の「麻」と名西郡の「名」をとってつけられました。この用水は，水田を開き，米を作りたいとねがったむかしの人たちが，苦労のすえ作り上げたもので，わたしたち吉野川市の農業にはなくてはならないものです。

あらい場（今も生活用水として利用されている）

ふちはコンクリートで固められている

あらい場で野菜や道具をあらったり，せんたくもしよったわ。

むかしの用水は，今のようにじょうぶじゃのうて，石がきや土をつみあげただけのもんじゃったのう。

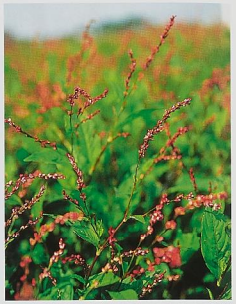
わしらが子どものころは，用水で泳いだり，魚をとったりして，よう遊んだもんじゃ。

夏にはホタルがいっぱいとんで，きれかったのう。

① 用水ができるまで

・むかしの農業

むかし，吉野川市の農家では，着物をそめる藍を盛んに作っていました。吉野川市のほとんどの畑に藍が植えられ，藍玉（藍の葉をうすでついてかためたもの）を全国に出荷していました。畑には，日照りにそなえて井戸がほられ，暑い夏には，水をくみ上げて畑に水をまくのが，たいへんな仕事でした。その上，日照りが続くと水が足りなくなり，農作物に害が出ることもよくありました。


藍

明治になると外国から安い藍が入ってくるようになったり，安い化学せん料が発明されたりして，藍づくりでくらしてきた農家は，たいへんこまりました。

・用水路づくり

藍づくりでくらせなくなった農家は，桑・野菜・まめなどをつくってみました。しかし，収入は安定せず，くらしは楽になりませんでした。農家の人たちの間では，用水を引いてお米を作り，くらしをよくしたいという願いがしだいに高まってきました。

このとき計画をまとめ，中心になってがんばったのが，名西郡の郡長（郡の役所の長）井内恭太郎という人でした。井内さんは，用水路づくりに反対する人たちと話し合い，1905年（明治38年），やっとのことで計画をまとめました。

井内恭太郎 氏

・麻名用水のたんじょう

すぐに用水作りのそくりょうがはじまり，次の年，1906年（明治39年）には，工事に取りかかりました。水の取り入れ口は，川島町の城山の西にあります。城山の下を通すため岩をくりぬいてトンネルをほりました。ダイナマイトを使っての大変な工事で，たくさんの人が，けがをしたりなくなったりしました。用水路は，両がわに土をもりあげたかんたんなものでしたが，1908年（明治41年），全長26kmの用水が完成しました。それは，先人たちが長年えがいていた夢の実現でした。

用水工事の年表	
1899年（明治32年）	・用水をつくる計画がでてくる。
1905年（明治38年）	・用水をつくる計画とそのための水利組合ができる。測量はじまる。
1908年（明治41年）	・用水の本線ができあがる。 ・初めて水を流す。
1912年（大正1年）	・用水の支線工事が終わる。（ひととおり　できあがる。）
1934年（昭和9年）	・井内恭太郎さんの銅像がたつ。
1940年（昭和15年）	・県がコンクリートほそう工事にかかる。
1953年（昭和28年）	・県が用水路のかく大としゅうりをする。

②用水ができあがって

用水はできましたが，両がわに土をもってつくった，かんたんなものだったため，とちゅうで水がもれたり土手がくずれたりして，水がじゅうぶん送れず，苦情が出ることもありました。その後，国や県も協力して4回にわたって工事が行われ，両がわがコンクリートでかためられた今のようなりっぱな用水ができあがりました。細い用水路も全部つなぎ合わせると，長さ200キロメートルをこえる県内でも特に大きな用水です。今，吉野川市では，約300けん〔2005年（平成17年）調査〕の農家が利用しています。吉野川の豊かなめぐみをわたす麻名用水は，米づくりや野菜づくりなどに大いに役立っています。

吉野川からの取り入れ口

用水ができるまでが書かれた碑

麻名用水の流れ

吉野川
阿波中央橋
知恵島小学校
吉野川高校
鴨島第一中学校
鴨島小学校
麻名用水碑
にしおえ
吉野川取り入れ口
川島橋
取入樋門
隧道
あわかわしま
西麻植小学校
導水幹線水路
北部幹線水路
吉野川市役所
飯尾敷地小学校
南部幹線水路
川島高校
県立川島中学校
西麻植小付近
飯尾敷地小分岐点
城山東出口
川島小学校
鴨島支援学校
森山小学校
森山小付近
鴨島東中学校
牛島小付近
おえづか
牛島小学校
つしのしま
上浦小学校
上浦小向麻山付近

③これからの麻名用水

お米を作り，くらしをよくしたいという農家の人びとの願いによって，長い苦労の末に，麻名用水はできあがりました。毎年農繁期には，水が流れ田畑をうるおし，市の農業にはなくてはならないものになっています。農家の人たちは，毎年用水をそうじしたり，修理したりして大事に利用しています。石井町には，用水を管理している「麻名用水土地改良区」のじむ所があり，井内恭太郎さんの銅像もたっています。

最近では，ゴミや家庭から出るはい水が流されたり，かり取られた草や木が投げ込まれたりして，流れがさまたげられたりして困ることがあります。用水をつくるために苦労した人たちへの感しゃの気持ちを忘れず，用水を適切に利用し，守っていくという大きな責任がわたしたちにはあります。

麻名用水土地改良区事務所

井内恭太郎銅像

●大正池

川島町の東の方にある山田・岡山地区は，ほかの地区にくらべて，高いおかの上にあります。そのため，豊かな吉野川の水が利用できなかったので，江戸時代の農民たちは，むかしからあるため池や小さな谷川の水をせきとめて，その水を田畑に引いてきました。

現在の大正池

しかし，少しでもひでりが続くと水がひあがり，いねに水をやることもできません。むかしの人たちは，雨ごいをして神にいのるしか方法がありませんでした。

そこで，毎年のようにくり返されるこの苦しい水不足をみすごすことができないと思った土地の人々は，しょう屋（むかし村の世話をしていた村長のような人）とそうだんした結果，もともとある池（古池）より，広くてたくさんの水をたくわえられる新しい池をみんなでつくろうということになりました。

現在の大正池

今から約160年前に，新しいため池づくりの工事が始まりました。その当時は，今のようにすすんだきかいがなかったので，「じょれん」や「もっこ」などをつかって，全て人間の力で工事をすす

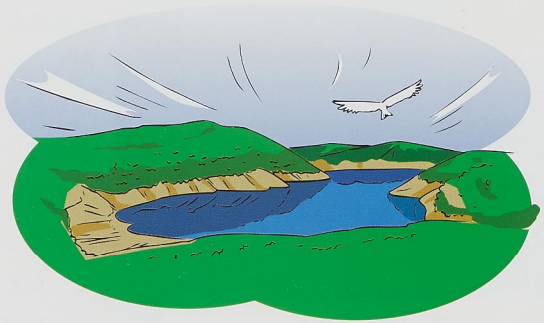
めました。近くの村々から毎日約350人を動いんし，約1年かかって完成しました。

これが，新池とよばれているものです。この池ができたおかげで，水にもこまらなくなり，お米も安定してたくさんとれるようになりました。

新池よりももっとたくさんの水をためておけるようにと，今から約100年前に新池のとなりにもう一つ新しい池をつくることになりました。この池が完成した年が大正4年だったので，その年号から大正池とよばれるようになりました。この池の水によって，今でも山田・岡山地区の多くの田や畑がうるおっています。

大正池の石ひ

このような先人の苦ろうをわすれないようにと，大正池近くの林の中には，池をつくった時のようすを書いた石ひが立っています。



(2) 地いきの文化を受けつぐ

●芳川顕正（けんしょうさん）

芳川顕正さんは1841年，山川町川田に生まれました。医学を学ぶために長崎へ行ったときに，のちに日本で最初の総理大臣となる伊藤博文と出会い，彼の英語の先生をつとめました。伊藤博文に信頼された芳川さんは東京府知事（今の東京都知事）をはじめとして，内務大臣・司法大臣・文部大臣などのせきにんのある仕事をまかされました。

芳川顕正さんの生家

文部大臣をつとめていたときには，教育や生き方の手本を示した「教育勅語」を中心となって作りました。当時は，時代が明治にかわり日本が新しい国づくりを始めていたときでした。芳川さんの活やくにより，新しい日本の土台がきずかれました。

東京府知事時代の芳川顕正さん

山川町北島にある芳川さんの生家には，偉業をたたえる様々な遺品がのこされています。

(3) 地いきの産業をおこす

●阿波和紙伝統産業会館（山川町）

①和紙会館の役わり

阿波和紙伝統産業会館（山川町川東）

和紙会館は，1989年（平成元年）５月に建てられました。当時の通産省の指定をうけ，国の伝統産業の１つである和紙づくりの「やかた」として，次のような役わりをもっています。

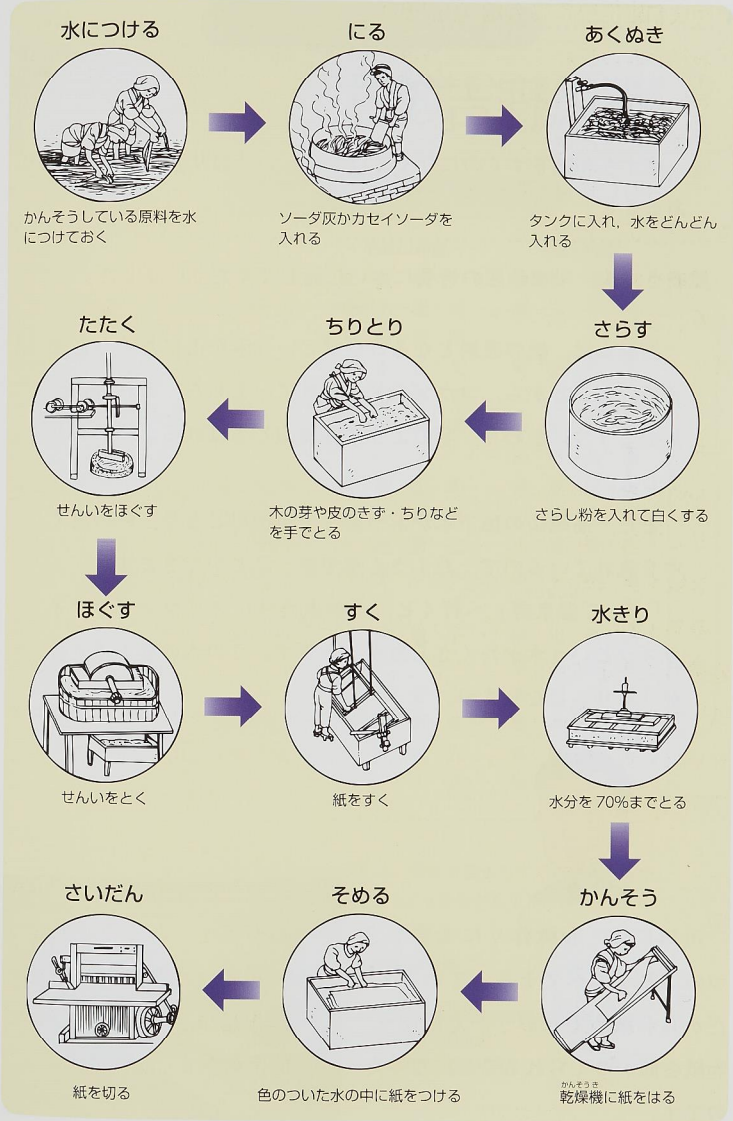
- 手すき和紙を作る方法を守り，ずっと後まで伝える。
- 和紙の作り方を多くの人に知ってもらったり，和紙を作ってもらったりして広める。
- 和紙を生活のいろいろなものに利用できるように開発する。

毎年12月ごろには，町内の６年生が卒業証書をすきにきます。また，外国の人もよく紙すきの勉強に来るそうで，毎年８月に開かれている紙すきの勉強会には，10人以上の外国人が参加するそうです。はがきや半紙をすく体験コーナーもあって，だれでも手づくりの和紙を作ることができます。

和紙の製品

そのほかにもちぎり絵教室，和紙うちわ制作，和紙人形教室，たこ作り教室などを開いたり，和紙を使った作品の展示会がたびたび開かれたりしています。

②和紙づくりのじゅんじょ



③川田で紙すきがさかんになったわけ

紙をすくときに大切なこと

① 原料になるコウゾの木があること
② 水がたくさんあること
③ 手すき和紙をすくのになくてはならない「ねり」をとるものがあること

館長さんが，川田地区の特長について話してくださいました。

高越山は，紙の原料となるコウゾという木が山にたくさん生えていたことから，コウゾ山とよばれていました。それがいつしかこうつにかわり，今のように高越山とよばれるようになりました。

また，高越山の地下水があつまって川田川となり，町の真ん中を流れているので，たくさん水を使うことができます。

「ふいご温泉郷」へ行くと，そのあたりにノリウツギ・サネカズラという木がたくさん生えています。この木の皮を煮た汁が「ねり」となります。

川田には，和紙作りに必要な３つのことがすべてそろっています。だから和紙づくりがさかんになり，和紙会館がつくられることになったのです。

吉野川市小学校社会科副読本

わたしたちの吉野川市

編集委員

	平成22年度	平成23年度
上浦小学校	佐藤敬一	前坂美由紀
牛島小学校	鈴木康司	重本伴子
	大櫛秀明	
森山小学校	宮本正文	河野啓介
	河野啓介	
鴨島小学校	大島直美	小野和敏
		山下昌則
飯尾敷地小学校	後藤由美	後藤由美
西麻植小学校	本多謙一郎	石田理恵
知恵島小学校	小西貴仁	小西貴仁
川島小学校	田中ひろみ	山本昌邦
学島小学校	田村　秀	田村　秀
山瀬小学校	松原徹子	前田和成
		重本英昭
川田小学校	前野哲也	明石真依
川田中小学校	森本政彦	橋本賢治
川田西小学校	長尾充人	長尾充人
種野小学校	林　千幸	林　千幸

この副読本を編集するにあたり，資料を提供してくださった方や取材にご協力いただいた全ての方々に心からお礼申しあげます。

2012年(平成24年)4月1日　初版発行

編集 ● 吉野川市小学校社会科副読本編集委員会
発行 ● 吉野川市教育委員会
印刷 ● 徳島県教育印刷株式会社

学校名　　小学校

クラス　3年　　組・4年　　組

名前